

平成27年7月吉日

長崎市議会議員への「市民活動及び市民協働に関するアンケート」 集計結果

長崎の市民活動団体有志ネット
事務局 ハンズオンながさき
代表 松尾博之

【アンケートの目的】

2015年4月の選挙で長崎市議会議員となられた方々に、市民活動及び市民協働推進についてのお考えをお尋ねし、今後の市民活動団体とのパートナーシップ構築、協働のスムーズな推進を促進するため、主に長崎市内で活動する市民活動団体が有志でネットワークを作り、アンケートを行いました。

【長崎の市民活動団体有志ネット（順不同）】

特定非営利活動法人 インフィニティー
特定非営利活動法人 環境カウンセリング協会長崎
特定非営利活動法人 子どもの人権アクション長崎（あじじの会）
特定非営利活動法人 心澄（しんじょう）
特定非営利活動法人 総合生活支援センターほっと
特定非営利活動法人 チャイルドライン・ながさき
特定非営利活動法人 長崎・教師力向上研究会（TOS S長崎）
特定非営利活動法人 フリースクール クレイン・ハーバー
特定非営利活動法人 まちづくり屋
アートクエイク
いろは塾
ジュニアリーダー空（そら）
ジョブマッチネットワーク長崎
Take it 虹！
トムテのおもちゃ箱
長崎大学発 ながさき海援隊
不登校・ひきこもり情報誌「今日も私は生きてます。」編集部
NGO LIN C
ハンズオンながさき

【アンケートの概要】

実施期間	平成27年4月28日～平成27年5月22日
対象	2015年4月26日の長崎市議会選挙で当選した方40名
配布方法	依頼文書、アンケート用紙、参考資料、切手付返信用封筒を同封し郵送
回答数	14名（35%）

【アンケート総括】

	項 目	説 明
1	市民活動および協働への関心が低い。	アンケート回収が全体の35%であることから「市民活動や協働」への関心は低いと見られる。
2	市議会議員に対して市民活動の存在感を示すことが出来ていない。	上記を別の視点でとらえると、市民活動や協働の結果が社会に対して大きな影響を与えていないと考えられる。原因としては、市民活動団体の人材不足、情報発信力の不足が考えられる。
3	市議会議員としては市民活動団体との交流に意欲がある。	上記「1～2」の状況でありながらも、議員の多くは市民活動団体との交流は持ちたいと考えている。これに先立ち、市民活動団体は市議会や議員の仕事を学ぶ必要がある。
4	市議会議員と市民活動団体との交流基盤は必要である。	上記「3」を受けて、市議会議員と市民活動団体との交流を一時的なものではなく「市民が主役のまちづくり」ための基盤づくりが必要となる。
5	今回の結果を活かし、「市民が主役のまちづくり」のためには、今回の結果を更に深める必要がある。	議員と市民活動団体の相互理解のために、交流会（意見交換会）を実施する。また、アンケート調査を継続することで市民活動への啓発を続けていく。

【項目ごとの回答】

質問１．長崎市をどんな街にしたいですか？（記述）

- ・「医療・福祉の拡充」「まちづくり」というテーマが多い。
- ・その中でも「少子高齢化」「子育て」「街の歴史・文化」「観光」に関する記述が多い。

質問２．市民活動のどの分野について関心がありますか？複数ある場合、最も関心がある分野の番号１つと、それ以外に関心がある分野の番号（複数可）をご記入ください。

（１）最も関心がある分野

- ・「保健、医療または福祉」「まちづくり」が最も多く、それぞれ３６％で、全体の７２％を占めており、質問１と同じ傾向。

■今後の対応と課題

①ＮＰＯ法に定義した２０分野を選択項目として提示したが、その内の１つ「まちづくり」であるが、回答では幅広い意味が含まれており、単純に２０項目分の１つといえない側面もある。それぞれの議員による定義や具体的な考えを聴き、理解する必要がある。その上で、長崎市内で「まちづくり」をテーマとする市民活動団体と市議会議員をつなげていくこと、他の分野の市民活動の啓発も必要である。

（２）上記以外に関心がある分野（複数回答）

- ・トップは「観光振興」
- ・次いで「子どもの健全育成」、「まちづくり」、「学術、文化、芸術またはスポーツ」

（３）その他

「ニート、引きこもりの若者支援」、「小さな拠点づくり」という意見があった。

質問３．市民活動はどのようなイメージですか？（複数可）。

- ・「地域のためにがんばっている」は全員が選択。
- ・「これからのまちづくりに欠かせない存在になる」といった市民活動への期待
- ・「知っている活動については地域のためにやっていると認識しているが、知らない活動に

についてはイメージがわからないものもある」という率直な感想もあり、幅広い分野で活動している市民活動の裾野が知られていない。

質問4. 協働について知っていますか？

- ・「知っている」が93%

質問4-2. 課題解決のために協働が必要な課題はどんな課題だとお考えですか？（複数）

- ・「まちづくり」「保健、医療または福祉」に次いで「子どもの健全育成」。
- ・『市民が協力して対応し、それだけで対応仕切れない部分を専門家集団である行政が担うべきであり、その意味では全ての分野』が協働の対象であり、市民が主役であるという意見もあった。

■今後の課題

質問2と同様の結果となり、これらの課題は協働で進めていかななくてはならないと考えていることがわかる。

質問5. 市民活動の推進及び協働の推進についてあなたが市議会議員としてどんなことができるとお考えですか？（記述）

- ・「市民活動と行政との橋渡し」「市民活動のサポート」という回答が多い。
- ・「自ら率先して市民活動に関わる」「既に活動している」という回答は少数。

質問6. 市民活動及び協働推進について何が課題をお考えですか？（複数）

- ・「活動する人材の確保」、「行政のシステム」、「人材の育成」の順。

■今後の課題

- ・「人材の確保」「人材の育成」の回答にはどういった人材が必要なのか、人数はいるがスキルが足りないだけなのかといった詳細についてヒアリングする。

（この「人材」への懸念が、市民活動のイメージが浮かばない、もしくは不安感へと繋がっているのではないかと考えられる。）

- ・「行政のシステム」については、行政システムの「何が」「どう」課題であるのかをヒア

リング等で把握し、具体的な解決に向けて取り組む。

質問7. 今後、より良いまちづくりをめざして市民活動団体と市議会議員の意見交換会を開催しようと計画しておりますが、これに参加したいと思いますか。

- ・「参加したいと思う」が86%
- ・「意見交換会以前に勉強会など現状が理解できる場を作って頂く必要があると思います。」と市民活動の理解をしようという前向きな意見もあった。

■今後の取組

- ・今回のアンケート結果を更に深めるためにも市議会議員へのヒアリングが必要であり、相互理解のために「交流・意見交換会」は実施する。

質問8. あなたが市民として日ごろ生活する中で、課題と覚じることは何ですか？具体的に教えて下さい。（記述）

- ・「空き家問題」「現在使用していない公共施設」など目に見えるものから「若者の雇用」「子どもの貧困」など肌で覚じる問題。
- ・「行政職員の無関心」「市民と行政との距離」「行政からのサポートの弱さ」「条例・予算の限界」といった行政の課題
- ・「市民の意見をまとめること」という市議会議員ならではの課題
- ・「市民活動への参加意識の低さ」「人材の不足」といった市民の課題というように、行政、市民双方の課題。